

キラリ! サステナビリティ活動 ポジティブ・インパクト・ファイナンスの取り組み

三井住友信託銀行は、企業活動が、経済・社会・環境にもたらすプラスとマイナスの影響を評価し、借り手の企業が持続可能な社会に貢献することを支援する新しい融資商品（ポジティブ・インパクト・ファイナンス）を開発し、2019年3月に不二製油グループ様と契約を締結しました。

この商品は、UNEP FI(国連環境計画金融イニシアティブ)の基準に準拠した一般の貸出(資金用途を特定しない)としては世界初のことで、海外からも注目されています。同年6月に

はUNEP FIの要請によりアジア円卓会議(上海)で取り組みを発表しました。

SDGs(持続可能な開発目標)や温暖化問題に対応するためのパリ協定の締結など、持続可能な社会を構築していくための国際的な連携が急ピッチで進んでおり、そのための資金を提供する金融機関に対する期待が高まっています。当社はサステナビリティ分野の日本のリーディングバンクとして、ポジティブ・インパクト・ファイナンスの取り組みを拡大させていく方針です。

UNEP FIアジア円卓会議で
当グループの取り組みを紹介
(2019年6月、上海)



エコツーリズムのすゝめ

表紙の写真:徳島県鳴門市/コウノトリ

皆さまは「エコツーリズム」をご存知ですか?エコツーリズムとは、環境保全と地域の持続可能性を考慮しながら、自然・街・人にやさしい観光を目指す理念です。日本には各地に豊かな自然環境や歴史文化がありますが、これらを体験しその保全について理解や学びを深めることが、今後の観光には求められています。今年度は、全国各地のエコツーリズムの取り組みを紹介します。



徳島県鳴門市では、コウノトリと共生した地域づくりに取り組んでいます。

国の特別天然記念物コウノトリは、両翼を広げると2メートルにもなる大型の鳥で、絶滅危惧種に指定されています。日本では1971年に絶滅した後、兵庫県豊岡市で人工飼育した個体を放鳥し野生復帰を目指す取り組みが進められています。そのような中、2015年、徳島県鳴門市に2羽が飛来し巣づくりを始め、2017年には3羽のヒナが誕生し、全国でも先駆的な地域となりました。それ以降、鳴門市からコウノトリに特別住民票が交付されるなど、県内でもコウノトリの人気が高まっています。

現在、地元の農家や大学、環境団体、行政、金融機関など多様な主体が参加して、コウノトリが安心して住み続けられるための餌場の確保や、コウノトリを活かした地域づくりの検討が行われています。その成果のひとつが「コウノトリおもてなしレンコン」です。農家の協力により、コウノトリの餌場となっている畑で低農薬栽培されたレンコンは、安全安心な農地であることを活かした農産物のブランド化につながっています。

コウノトリの見物客も増え、エコツーリズムの資源としても注目されています。今後は、農作業の支障にならない見学の仕組みづくりや、コウノトリと一定の距離を保つルールづくり、電線との接触対策などが課題です。鳴門市へのコウノトリの飛来は、失われた自然を見つめ直し、自然と共生する農業や観光のあり方、地域活性化を考える大きなきっかけとなっています。



電線の上に巣をつくるコウノトリ

写真提供:(公財)日本生態系協会

旬を味わう「ホームクッキング」レシピ

さんまのカレー風味焼き



カレー風味が食欲をそそるメニューです。さんまにはたんぱく質、脂肪が豊富で、血合にはビタミンB2、Dも豊富に含まれています。9~11月が旬の季節。

調理時間	エネルギー	塩分	ホームクッキングはこちら!
20分	381kcal	1.5g	

※エネルギー・塩分は1人分です。

材料(2人分)

- さんま 2尾
 - セロリ 1/2本
 - 水菜 適量
 - 小麦粉 少々
 - デルモンテ・オリーブオイル 大さじ1
 - キッコーマン特選丸大豆しょうゆ 大さじ1
- (A)下味
- カレー粉 大さじ1/2
 - 小麦粉 少々



メニュー提供 キッコーマン株式会社
※禁無断転載

作り方

- さんまは3枚におろして腹の骨をそぎ取り、3等分して(A)を絡める。
- セロリは筋を取って薄切りに、水菜は食べやすく切る。
- フライパンにサラダ油を弱めの中火で熱し、1に薄く小麦粉をまぶして両面2~3分ずつ焼いて火を通す。しょうゆをまわし入れて絡める。
- 器に3を盛りつけ、2をのせる。

SuMi TRUST With You

2019年度
社会貢献活動
REPORT
vol.2

Special Topic スペシャルトピック

新しい「健康」への備え~人生100年応援部~

キラリ! サステナビリティ活動

ポジティブ・インパクト・ファイナンスの取り組み

旬を味わう「ホームクッキング」レシピ

さんまのカレー風味焼き



当社のサステナビリティ活動はこちら

サステナビリティサイト▶



支店ブログ▶



新しい「健康」への備え～人生100年応援部～



医療技術の進歩などにより、我が国の平均寿命がさらに伸び、多くの方が100歳以上の長い人生を生きることになるといわれていますが、現在の社会や企業の各種制度は、「人生100年」を前提としていないため、これまでになかったさまざまな不安を抱えることになることが予想されます。三井住友信託銀行では、「人生100年応援部」を新たに設置し、「人生100年時代」の到来により生じるさまざまな課題に対し、適切なソリューションを提供してまいります。



人生100年応援部
部長
谷口 佳充

昭和から平成に移った頃「これから人生80年の時代になる」と言われ、さまざまな変化がございました。あれから30年、多くの方に「百寿」が訪れる令和の時代において、信託をはじめとしたソリューションで、皆さまの豊かな人生を応援いたします。

2019年度レポートVol.1では、「健康」に関連して、「フレイル」や、「見えない資産-社会とのつながり」についてお話をしました。今回も「健康」の話題をご紹介します。

健康について

「健康」というと、皆さんはどういう状態と思われるでしょうか。「健康診断」などからイメージされるように、「病気ではないこと」「病気として設定されている基準数値よりも良いこと」でしょうか？「健康」は、皆さん個人個人によって、いろんな意味合いがあると思うのですが、WHOの定義では、下の囲みの通りとなっています。日本語訳は戦後すぐの官報から引用していますので、少し古く感じるかもしれませんが、皆さんのイメージと合いますか？

WHOの健康の定義

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、完全な肉体的、精神的および社会的福祉の状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない。

読んでみて少し気になるのは、「完全な」というところでしょうか。英語の“Health”という言葉自体が、“Whole”などと同じ語源で、やはり完全という意味合いがあるとも言われているようですが、複数の慢性疾患を抱える高齢社会の中で、「完全な」を徹底することは難しく、また過度な医療依存にもなりかねません。例えば日本と同じように高齢社会に直面しているオランダでは、「健康」について、「社会的・身体的・感情的問題に直面したときに適応し、みずから管理する能力」という新しい健康概念「ポジティブヘルス」が提起され、「身体的機能(体調、睡眠等)」「メンタルウェルビーイング(記憶力、変化に対する適応等)」「生きがい(生きる意欲、感謝の心等)」「生活の質(住居、生

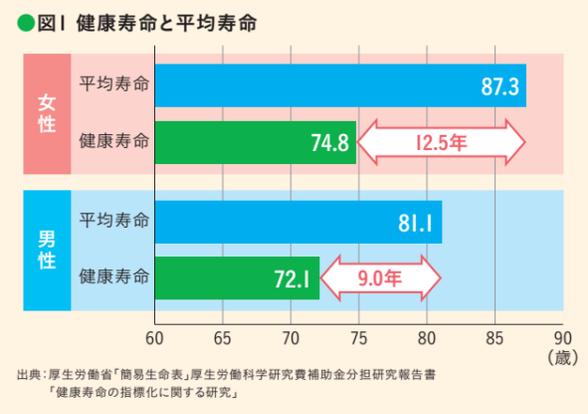
活を賅える経済力等)」「社会参加(社会的な接触、帰属感等)」「日常機能(自分の限界を知る、動ける等)」という6つの次元にフォーカスをあて、疾患であってもそれに対処し乗り越えていくこと、前向きに人生を過ごすことを、個人で地域で、国全体で、推進しようとしているそうです。

漢字の「健康」は、中国の五経の一つ易経にある「健体康心(体がすこやかで、心がやすらかなこと)」から作られたといわれています。

「病は気から」、人生100年時代に大切なのは、前向きな気持ちによって心をやすらかにする力なのかもしれません。

健康寿命

また健康について、2000年にWHOが提唱した言葉に、「健康寿命」があります。「寝たきりや認知症で介護が必要な期間を含まない寿命」ということで、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」とされており、この健康寿命と平均寿命のギャップが図1になります(残念ながら日本は欧米に比較して、健康でない期間が長いそうです)。人生100年時代に向けては、この健康寿命を延ばすことと共に、ギャップ期間も含めた「ポジティブヘルス」の実践が大切です。



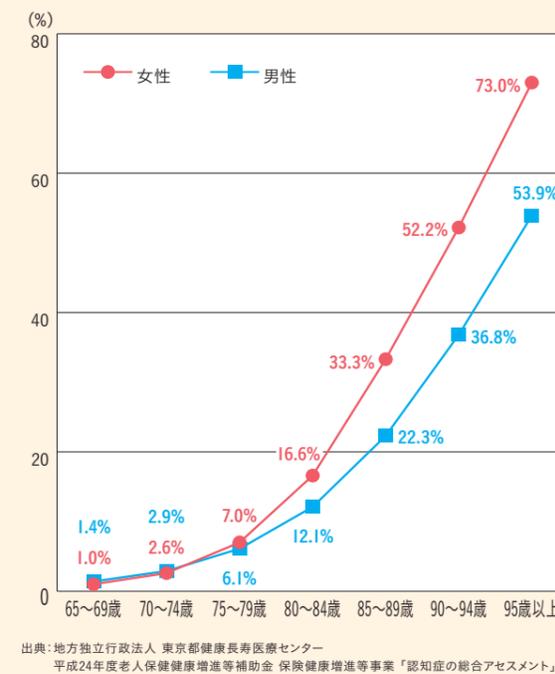
認知症について

そして、人生が80年から100年に延びる中で、「認知症」への対応がクローズアップされています。

図2にあるとおり、人生が80年で終焉を迎えていれば、認知症は一桁パーセントの出現率のところ、80歳を超えたあたりから出現率が高まり、例えば95歳以上の女性では4人に3人ほどと、他人ごととしておくには難しく、大きな割合になってきます。

認知症を発症すると、個人差はあるのですが、記憶力や、意思さえも消えていく可能性があり、財産管理はもちろん日常生活も難しくなっていきます。

●図2 年齢別認知症出現率



ただ、認知症は、現在の医学では治療が難しいといわれていますが、仕方ないということではなく、早期発見・早期治療によって、改善することができたり、進行を遅らせることができます。例えば、認知症は、「遺伝因子と環境因子との積み重なり」で、一定のラインを超えると発症するといわれています。

環境因子は自分でコントロールすることができるものであり、糖尿病、高血圧、脂質代謝異常などに象徴されるメタボリック症候群などは認知症の確率を高め、一方で、赤ワイン、緑茶など抗酸化作用のある食生活は予防効果があるといわれています。これらをポジティブに意識し、生活環境をコントロールすることで、発症ラインへの到達が無くなったり、遅くなったりする可能性があるわけです。

例えば図3にあるような簡単なチェックをしてみて、複数項目が該当する場合などは、医師の診断を受けることで、早期発見ができます。

●図3 認知症のチェック

認知症による変化は、ご本人より周りが先に気づく場合も多いものです。家族や身近な人がチェックをしてみましょう。

- 同じことを何度も繰り返して話したり、聞いたりする。
- しまい忘れが多く、いつも探し物をしている。
- 曜日や日付が分からず何度も確認する。
- 料理の味が変わったり、準備に時間がかかるようになった。
- 薬の飲み忘れや、飲んだかどうか分からなくなることがある。
- リモコンや洗濯機などの電化製品の操作がうまくできない。
- 失敗を指摘されると隠そうとしたり、些細なことで怒りようになった。
- 財布や通帳などをなくして、盗まれたと人を疑う。
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった。

出典：京都市・京都府医師会・認知症疾患医療センター(監修)「認知症?『気づいて相談!』チェックシート」

認知症の方の数は2050年までに世界で1億人を超え、そのうち日本では1,000万人を超えると推計されています。

そのような中で大切なことは、家族や社会が、認知症とともに生きる環境、認知症になっても、これに対処し、乗り越え、笑顔で暮らせる環境を作っていくことだと思います。

認知症に対応するための器として、日本では、後見制度、家族信託や自立支援事業などがあり、三井住友信託銀行でも後見制度支援信託、セキュリティ型信託、安心サポート信託など複数のソリューションをご用意し、また今年6月からは新たに「100年パスポート」もラインナップに加えております。

新しい「健康」社会に向け、これからも当社は、人生100年時代の皆さんをしっかりと応援いたします。

三井住友トラスト・グループのSDGs取り組み推進

当グループでは、持続的成長を目的としE(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)を重視する「ESG経営・金融機関NO.1」を掲げた取り組みを推進しています。その一環で2018年からは、国連により採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を事業機会の開拓、ステークホルダーの皆さまとの共通言語と位置づけました。私たちは社員ひとりひとりが担い手となり、SDGsが掲げる17の目標達成に貢献していきます。

当グループのSDGsの取り組みはこちら

